

「 雷発生と降水確率の目安 」

怖いものの代名詞に「地震、雷、火事、親父」があることは、前に触れた。今も変わらず、地震と雷は大きな災害をもたらす困った自然現象だ。筆頭の地震は5月26日に続き、今月も宮城県で震度6強・6弱の地震が発生した。

雷は発達した積乱雲の中で発生し、激しい上昇気流に伴って生じる電気であることは良く知られている。一回の放電量は二万アンペア、電圧は十億ボルト。

一回の放電時間は千分の一秒といわれ、瞬く間だ。

雷の放電が発生した地点では、周囲の空気が一万度以上に熱せられ、空気が急膨張して雷鳴が発生する。

その音は、落雷付近では“ピシッ！”とか“バシッ！”という、一瞬で空気を引き裂く響きに聞える。雷鳴が遠くへ伝わる場合、空気に共鳴して“ゴロゴロ”という音になる。

雷鳴が聞える距離は十km程度。相次いで起きる雷放電（落雷）の移動距離は、雷のシェル（雷雲の大きさ）とほぼ同じで、一km～十kmである。

即ち、小さな雷鳴が聞えた時、次の放電が落雷となって自分の近くに落ちる危険がある事を知っておくと良い。落雷事故の多くのケースを避けることにつながる。

「晴天の霹靂（へきれき）」の文句で知られる通り、落雷の予想は大変難しい。それでも、降水確率がある程度の目安になることがある。

夏の朝、田畑などに出かける時、空が綺麗に晴れていても、天気予報でその日の午後の降水確率が30%以上を告げている時は要注意。

夕立や雷が発生し易い気象条件となっている場合があり、空の雲の動きをマークしながら農作業を続けよう。

（ 気象情報システム株式会社 高津 敏 ）